

# 哲学歴史学科

## 哲学コース

### 哲学コースとは

「哲学」とは、明治初期にギリシア語の「ピロソピアー（フィロソフィア）」に当たる西洋語を訳した際に造られた言葉です。「ピロー」は「愛する」、「ソピアー」は「知」という意味なので、「哲学」とはもともと「知を愛すること（学問）全体を指していました。それが時代を下るにつれ、観察による知識体系が発展し分野ごとに「科学」として独立していきます。そして「哲学」には観察できない事柄だけが課題として残されました。

哲学コースには、時間のように宇宙を成り立たせていること、生前や死後のことのように知りえず信じるしかないこと、美しいと感じること、正しいとか良いとかいうこと、などについて、それぞれ根本から探求している教員が揃っています。「それって、そもそも、どういうこと？」と問うのが好きな人に向いているコースです。

### 先生の研究

私の専門は「倫理学（道徳哲学）」です。『すべきだ／すべきでない』『しななければならぬ／しなくてもよい』などということについて、どうしてそういうのか、そもそもその理由（とその考え方）について考える学問です。なかでも、そもそも倫理学とは何でありいかにして成り立つのか考える「倫理学基礎論」、医療に関する倫理問題を考える「医療倫理学」、人権の基礎づけと諸問題について探究する「人権論」、倫理や道徳をどう教えるべきか考える「道徳教育論」という四つの柱に即して研究を進めています。その時々テーマに即して、歴史学、社会学、教育学、心理学、文化人類学、生物学、医学、看護学、法学、経営学、経済学、工学など、他のさまざまな分野の研究者とも共同で研究を行ってまいります。



准教授 つちや たかし  
土屋 貴志 先生

### 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ  
私と哲学の出会いを遡れば、いつだったか、ある古書店で、中島義道『カントの自我論』（岩波現代文庫、二〇〇七年）を手にしたことが思い出されます。この本は、私をへ哲学の世界へ投げ入れるだけでは満足せず、一冊の古典・カント『純粹理性批判』を丹念に読む「術」の必要性を思わせ、私をへ哲学コースへまで導いたのです。

○自身の興味について  
学ぶためには、まず、書物を読むしかありません。哲学コースは、当然、哲学の良書を教えてくれます。また、文学部の他コース、あるいは他学部の講義に出れば、その分野の良書を知ることが出来ます。大学（哲学コースを含む）にまつわる私の関心は、さまざまな良質の書物を知り、手に入れ、そして読む機会を得ることにあります。

○コースの雰囲気・特徴  
哲学の仕事は、「現実」の把握から「本質」への移行と言えるかもしれません。その移行の方法として、対話が重視されています。哲学コースでは、授業や自主的な勉強会の場を通じて、実に侃々諤々の議論が行われています。とりわけ、哲学書を精読し、自らの解釈を議論し合う有志の読書会は、哲学コースの特徴的な文化でしょう。

### 卒論タイトル例

- ・トランスジェンダー生徒を考慮した公立中学校のあり方について
- ・ニーチェによるキリスト教批判
- ・ナチスドイツの排他的性格と大衆の関係性から見る排外主義——ハンナ・アーレントに寄せて——

### 哲学コース オススメ入門書

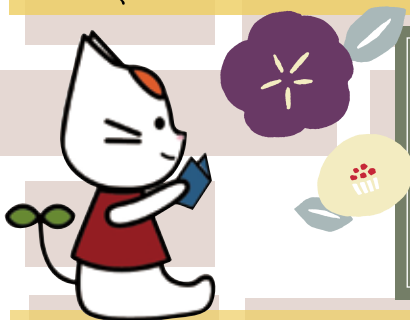
『哲学ってどんなこと？』  
——  
とっても短い哲学入門』  
【著者】トマス・ネーゲル（岡本雄一郎・若松良樹訳、昭和堂刊）

【紹介】  
副題の通り、とっても短い。だから読み通すのは楽だろう。大学で哲学を本格的に学びたい人には物足りないかもしれない（そういう人はもうとっくに読んでいるだろうが）。また、哲学史の解説なんぞはないので、「世界の哲学者に人生相談」みたいな思想のウンチクをひけらかしたい人には、お門違いだ。

でも、本の薄さに比べ、内容はけっして薄くない。著者の書いていることを、じっくり味わいながら、丁寧に読んでほしい。

哲学とは何よりも、「そもそも」それはどういうことか、どうしてそう考えるのか、そう考えてよいといえるのはなぜか、などと考えることだ。この本がつまらない人は、哲学コースに来ないほうがいい、とさえいえる。

残念ながら今は版元で品切れになり新品は手に入らないようだが、図書館や古本で手にとってみてほしい。



3回生 しもなか ゆうと  
下仲 湧斗 さん

### 教員紹介

仲原 孝 教授 Takashi Nakahara  
宗教学。宗教哲学。カント、ニーチェ、ハイデガーを中心とする近現代ドイツ哲学の研究。  
『ハイデガーの根本洞察』（昭和堂、2008）

高梨 友宏 教授 Tomohiro Takanashi  
ドイツ近現代美学、近代日本の芸術論。「西洋近現代美学の概観」加國尚志・平尾昌弘編著『哲学の眺望』（晃洋書房、2009）

土屋 貴志 准教授 Takashi Tsuchiya  
倫理学（道徳哲学。とくに、倫理学基礎論、医療倫理学、人権論、道徳教育論）  
論文「倫理学するのに倫理想研究は（なぜ、どこまで）必要か」関西倫理学会『倫理学研究』48号（2018）

佐金 武 准教授 Takeshi Sakon  
英語圏のいわゆる分析哲学の文脈において、現代時間論および関係する形而上学の諸問題を中心に研究。  
『時間にとって十全なこの世界—現在主義の哲学とその可能性』（勁草書房、2015）